

2010年度 早稲田大学 政治経済学部

日本史 解答例

I 織豊政権の蝦夷地と琉球 <標準>

- A 1ウ 2イ 3ア 4ウ 5ウ 6イ 7ア 8エ
B 1コシャマイン 2按司 3おもろそうし

難問はA3。A7・8も簡単ではないが、よく史料を読解したうえで選択肢を見くらべれば解答を絞り込める。正解した人でも決して確信を持っていたわけではないだろう。

II 新井白石の日記 <難>

- A [i]<d> [ii]<c> [iii]<a> [iv]
[v] [vi]<e> [vii]<d> [viii]<a>
B [ix]藩翰譜 [x]富士山 [xi]ポンペ

A5・11は超難問。今後も備える必要はないだろう。A4・8も難問と言えるが、どちらも2択くらいまで解答を絞り込めるので、冴えている人なら正解できてしまえるかもしれない。

III 明治時代の政治・社会・文化 <易>

- A 1オ 2ウ 3(i)ア(ii)コ 4⑤エ⑥キ 5ア

B 板垣退助中心の自由党は急進的な自由主義をとらえ、フランス流の一院制と主権在民を求めた。大隈重信中心の立憲改進黨は穏健的で、イギリス流の二院制と議院内閣制の政治体制を主張した。これに対し、福地源一郎中心の立憲帝政党は保守的で政府に支持された。(120字)

A1は消去法で解ける。Bの論述は誰もが書ける内容で合否を分ける問題ではなかった。数年前までのハイレベルな論述問題は、本当にもう出題されないのだろうか。

IV 大正・昭和初期の政治・社会・文化 <やや難>

- A 1ニ 2ハ 3ニ 4イ 5ニ 6イ 7ハ 8ホ
B a都市計画法 b清浦奎吾 c国防の本義と其強化の提唱

A 3・B aは超難問。これらの正否を気にする必要はない。しかしA 2・4などは合否を分ける問題だっただろう。A 2は三種の神器などの知識と重ね合わせれば正解できるし、A 4も早稲田では2005年、2007年に他学部で出題されていた用語である。

V 戦後の政治・経済 <標準>

A 1. え 2. い 3. お 4. え 5. あ 6. う 7. お 8. い

B a. 特需 b. 鈴木茂三郎 c. 鳩山一郎

難問はA 5・6・7。ダミーの選択肢にも大変まぎらわしいものが並べられていて、解答を絞り込むことも困難になっている。ここにつまづいて時間を取られてしまうと、考えれば解ける問題や論述問題で損をしかねない。

講評

どうにもならない難問を相手にする必要はないが、本学部の問題全体を愚問・難問とくさしては合格から遠ざかるばかりである。未見史料を読解する力をつけて、一見難問に思われる問題を解けるようにしよう。ポイントを外さない学習が大前提である。